



1年学年だより

発行日：令和4年4月28日（木）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

学校長：遠藤 広樹 NO. 1

環境の変化について

校長代理 富樫 哲一

校長代理の富樫 哲一（とがし のりかず）です。南高等学校附属中学校2年目になります。改めて皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、新年度を迎えてあっという間に1か月が経とうとしています。2年生、3年生はクラスのメンバーがかわったり、担任の先生や教科の先生方がかわったりと、人によって差はあると思いますが、心地よい緊張感を感じながら過ごした1か月だったのではないのでしょうか。中でも1年生は、周囲の友達や、学習の内容やレベル、生活のリズム…と、小学校から中学校へという、あまりに大きな環境の変化に、「心地よい」とは言えないほど強い緊張感を感じている人も多いのではないのでしょうか。

4月になって皆さんが、やや緊張しながら受けている授業の様子を見ながら、私は自分の小学校から中学校へ進学した時のことを思い出してみました。

私の通っていた小学校は、6学年すべて単級の学校（各学年1クラスしかない学校）でした。また、1学年は多くても20人ぐらいで6年間ずっと同じ顔ぶれなので、ほとんど兄弟姉妹のような感じで小学校生活を送っていたことを覚えています。しかも、家から歩いて5分ほどで通いやすく、日々全くと言っていいほど緊張せずに、6年間を過ごしました。

そんなのんびりとした小学校生活を経て、学区の中学校へ初めて通学した時のことは今でも忘れることができません。進学したのは、1学年13クラス、500人近い県内でも最大規模の中学校だったのです。繰り返しになりますが、全校で13クラスではありません。1年生だけで13クラスもあったのです。しかも、通学には歩くと1時間以上かかるので、私は自転車通学が認められていました。

とにかく始まった中学校生活の何もかもが驚くことばかりで、正直なところ、最初は緊張感を感じている余裕もありませんでした。しばらくすると（だいたい1か月ぐらいかな）、学習や生活のリズムもつかめ、友達もできはじめ、そこで初めて自分以外のみんなも自分と同じように不安になったり緊張していたりしたことを知り、とてもほっとしたことを思い出します。みんな自分より「スゴそう」に見えてたけど、みんな同じなんだなど。

皆さんも生きていく中で、これからも大学生になったり、就職したり、異動になったり、中には起業したり、転職したり、海外に移住したり、結婚したり…と大きな環境の変化に対応しなければならないことが何度か待ち受けているかもしれません。人によっては、そういった環境の変化を積極的に楽しめる人もいますが、大多数の人は何とか自分なりに頑張っただけでその変化に対応して乗り切っているのではないかと思います。

自分の力を最大限に発揮するためには、心理的な安全性が不可欠です。安心できる環境にいるからこそ人は頑張れるのだと思います。中学生の皆さんは新しい環境に対応するスキルはまだ身に付いてなくて当然です。これから何度も環境の変化に対応していく中で、それぞれが自分にあったスキルを身に付けていくものだからです。

最後に、学校は先ほど述べた心理的安全性を皆さんに感じてもらえるように、4月の早い時期に担任との教育相談の時間を設けましたが皆さん、活用しましたか？4月に限らず先生たちはいつでも相談を待っています！

各学級、教科の先生を紹介します！

中学校では、教科ごとに授業を担当する先生が変わります。そのため、各教科をより専門的に深く学ぶことができます。

また附属中学校では、中学校の先生方のほかにも、高校の先生方にも授業を担当していただいています。そして、教科学習だけでなく、EGG や委員会、部活動などでも、たくさんの先生方や職員の方々が、8期生の成長に関わってくださいませ。(南高校および附属中学校には約 100 人の先生方・職員の方々がいらっしゃいます！)校内で出会う中学校、高校すべての方に、みなさんから、元気に何度でもあいさつをしましょう。

※1 斜体字は高校の先生です。

※2 英語と数学は2クラスを3グループに分けて、少人数で学習します。

	1組	2組	3組	4組
担任	海崎 隆徳	河本 卓也	神馬 和樹	茂木 瑠香
副担任	下村 ゆりか	石井 温子	石井 温子	三井 俊文
国語	海崎 隆徳	石井 温子	石井 温子	海崎 隆徳
社会	三井 俊文	三井 俊文	三井 俊文	三井 俊文
数学	茂木 瑠香 酒井 貴史	茂木 瑠香 酒井 貴史	茂木 瑠香 永塚 脩平	茂木 瑠香 永塚 脩平
理科	河本 卓也	河本 卓也	河本 卓也	河本 卓也
音楽	高尾 真樹子	高尾 真樹子	高尾 真樹子	高尾 真樹子
美術	前田 純治	前田 純治	前田 純治	前田 純治
保健体育	小野寺 啓司 深谷きらら 西山 恵美子	小野寺 啓司 深谷きらら 西山 恵美子	小野寺 啓司 深谷きらら 簡 優好	小野寺 啓司 深谷きらら 簡 優好
技術	甲斐 謙二郎 太田 壮司 佐野 和夫	甲斐 謙二郎 太田 壮司 佐野 和夫	甲斐 謙二郎 太田 壮司 佐野 和夫	甲斐 謙二郎 太田 壮司 佐野 和夫
家庭	菊池 智美 島袋 十和子	會田 裕香 島袋 十和子	菊池 智美 會田 裕香	會田 裕香 島袋 十和子
英語	下村 ゆりか 神馬 和樹 栗原 順子 樋口 涼太 ディラン ムエンズバーグ	神馬 和樹 小川 麻悠子 栗原 順子 徳永 上総 ディラン ムエンズバーグ	下村 ゆりか 神馬 和樹 栗原 順子 徳永 上総 ディラン ムエンズバーグ	下村 ゆりか 神馬 和樹 西本 かなこ 徳永 上総 ディラン ムエンズバーグ

11期生、PAAに行ってきました！

4月14日（木）、11期生はプロジェクトあしがらアドベンチャー（PAA）に行ってきました。

当日はあいにくの天気でしたが、そんなことも気にせず前向きに、バスの中からすでに元気いっぱい。体育館での活動がスタートすると、ファシリテーターの方々とともに、仲間と協力しなければ解決できない数々のアクティビティに挑戦していきました。

PAAの合言葉は『本気で、みんなで、安全に、話す、聴く』。うまく出来ても出来なくても、みんなで声をかけ合い、仲間を思いやり、協力して取り組みました。気づきの言葉を書きためた「BEING（みんなの手形で縁取られた模造紙）」は、今も各クラスに掲示してあります。南高附属中学校生活の大きな第一歩となりました。



1組

すぐバスのとなりの人と仲良くなれた。塾が同じ会社だったということを知り、より親近感がわいた。そして、みんなの様子を見ていて、仲良くなれているなど思い嬉しくなった。お話はとても楽しく、時間があっという間に過ぎていった。到着してすぐのときは緊張していたが、グループになって自己紹介したり、手を重ねるゲームをしたり、ジャンケンであそんだり、以心伝心ゲームをしていくうちにもっと打ち解けることができた。そして、ビーイングではこれからより良いクラスにしていくために必要なことは協力し、お互いのことを考える大切さだと学んだ。お昼は笠松さんと岸上さんとより親交を深めることができて良かった。大変だったことは、グループで絵を順番にならべるゲームだ。表現力と理解力が必要で、言葉で伝えたり、伝えられたものを想像するのが大変だった。とても惜しかったので本当にくやしかった。しかし、PAAで一番楽しかった。PAAでは、本当にたくさんのことを学ぶことができた。楽しかった。

2組

実際にPAAに行くと、よりクラスの人たちの良さが伝わりました。大縄とびでは失敗してしまったら、優しく大丈夫だよと声をかけてくれ、とても勇気づけられました。大縄は20人ほどで一緒に走りぬけるのがとても難しかったです。しかし、それを成功させるためにもっとこうすればいいという意見を出し合い、みんなで考えられたことはとても素晴らしいことだと感じました。フラフープをみんながくぐるタイムを、どんどんちぢめていくという挑戦がとても楽しかったです。最初は40秒をこえていたのに、最終的には10秒をきることができ、チームワークの高さを痛感しました。個人的には、バスの中が一番楽しかったです。行きのバスでは、到着する前につかれてしまうくらい、話して笑い合いました。帰りは疲れも忘れてしまうくらい、周りの人たちの話がおもしろく、たくさん笑ってしまいました。

3組

今回一番感じたことは、「関りが深くなくても協力はできる」ということでした。細かく言うと話してある程度のことを知ったりはしていますが、その日に初めて話した人達というのは基本的には協力できる信頼関係がなく、ないとできないと思っていました。けれどおたがいが、「協力しよう」「協力したい」と思えば協力はできる！ということが学べました。初めのほうはまだみんなの緊張がとけ切れず和やかで楽しい雰囲気になるまでの間は少し大変だったと思います。やはり、みんなと協力して課題にチャレンジしている時に一体感を感じたところが一番楽しく嬉しいことでした。

4組

PAAの前は、4組は静かでおとなしい子が多いクラスだと思っていましたが、実際にクラスの仲間と様々な課題に挑戦していくなかで、4組のみんなは周りを見て行動したり、協力することができるクラスだと分かりました。特にハーフパイプを使ってビー玉をバケツに運ぶ課題やマットとマットを移動してあいうえお順に並び変えるという課題ではクラスの団結力の強さや仲間を思いやりお互いにアドバイスし合うことができると感じました。誰一人見捨てず、全員で心を1つにできたことはいい経験になったと思います。団結力、アドバイスし合うこと、協力すること、メリハリ、誰かが失敗してもはげまし合うこと、諦めないことの大切さを学びました。クラスの人々とたくさん話したり、協力したり、笑ったり、考えたりすることができて良かったです。仲を深めることができて良かったです。

みちをのつぶやき「幸せは笑顔からくるんだもの」

11期生の学年主任の三井です。11期生の中学校生活がいよいよスタートしました。いろいろなことに挑戦して、充実した中学校生活3年間、そして高校生活も含めた6年間を送ってほしいと思います。先生たちと一緒に笑って過ごせる日がずっと続きますように！